国交正常化45周年　中国特集

"中華文明発祥の地" 中国河南省

今年2017年は日本と中国の国交正常化45周年。両国で多くの記念事業が予定されている。さらに中国では日本人観光客のさらなる誘致に向けて、省や地域ごとのPR活動も盛んだ。国交正常化45周年中国特集。今回は黄河中流域の「中原」と呼ばれる中華文明発祥の地、河南省を取り上げた。

鄭州

河南省の省都で同省第一の都市。人口およそ950万人。

今から3600余年前、中国の古代王朝、商（殷＝いん）の創始者、湯王が都を置いたという古都。中国八大古都（北京、南京、杭州、安陽、開封、鄭州、洛陽、西安）の二つで、国土を南北に走る京広線と東西に走る隴海線の二つの幹線鉄道が交差する交通の要衝。

古代中国では天地の中央に中国、そのさらに中央に河南省だ。

河南省一帯が位置付けられ、歴代王朝の多くがこの地一帯に都を置いた。八大古都のうち半数（安陽、開封、鄭州、洛陽）がここ河南省だ。

少林寺

八大古都「鄭州」「開封」「洛陽」、歴史の舞台「三門峡」

「菩提達摩」が禅宗を開く 11の建築群が世界遺産に

●「天地之中」歴史建築群

鄭州市中心から西へ約70キロの県級市、登封市の山岳地帯、嵩山（すうざん）にある漢から清の時代に建てられた8カ所11件の歴史的建築群。2010年、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

8カ所の建築群は少林寺建築群（常住院、初祖庵、塔林）、嵩陽書院、太室闕（けつ）と中岳廟、少室闕、啓母闕、嵩岳寺塔、会善寺、観星台。

●少林寺

インドの高僧、菩提達摩（達磨＝ダルマ）がここで禅宗を開いたほか、少林武術を創設したとの説もある。

嵩山を構成する太室山、少室山という二つの山系のうち、少室山五乳峰のうっそうとした林の中にあることからこの名が付いた。北魏王朝時代の西暦495年、皇帝孝文帝がインドの高僧跋陀（ばつだ）を住まわせるために建てたといわれる。

中国に布教で訪れた達磨はこの寺の裏山の洞窟に9年間（西暦527～536年）こもり、座禅を組んで修行、禅宗の開祖となった。

唐の第二代皇帝、李世民（太宗）が中国を統一した際は、寺の僧侶13人が武術により皇帝を敵から守ったといわれる。

寺では僧侶らによる少林武術のショーが行われている。

●嵩陽書院

北魏時代の西暦484年に創建。宋代の最高学府の一つで「中国四大書院」のトップ。

院内にある2本の柏の木は、漢の時代の皇帝、劉徹（武帝）により「将軍柏」と名付けられた。樹齢4500余年の、中国でも最も古い古木の一つ。

●商城遺跡公園

商の時代の歴史文化遺跡。周囲約7キロに城壁、敷地内に墳墓、祭祀区、作業場、貯水池、排水溝、給水管などが残されている。

●黄河風景名勝区

市街地から北へ約20キロの黄河南岸にある遊覧区。高所に登り北を望むと、とうとうと流れる黄河の絶景を一望する。「五竜峰」「岳山寺」など六つの観光区に「炎帝・黄帝」「万里の黄河第一橋」などの観光スポットが点在している。

焦作

世界ジオパークと太極拳発祥の地

鄭州市の黄河をはさんで北側に位置する人口約350万人の都市。世界ジオパークの「雲台山」や太極拳発祥地の「陳家溝」が主な見どころ。

●雲台山

焦作市北部、山西省との省境に位置。2004年、世界ジオパークに指定された。

面積約190平方キロの風景区に紅石峡、青竜峡、子房湖、百家岩、選彩洞など11の観光スポットがある。紅色をした山の岩肌、高さ314メートルと中国一の高低差の瀑布など自然の景色が美しい。

雲台山

●陳家溝

焦作市の県級市、温県にある村。中国武術の一つ、太極拳の発祥地として知られる。

開封

いにしえの宋の都を再現

鄭州市の東に隣接する都市で、人口約500万人。

中国八大古都の一つで、北宋時代（西暦960～1127年）は「東京」の名で首都として栄えた。

●宋都御街

1988年に作られた宋代の雰囲気を再現する商店街。

南の「新街口」から北の「午朝門」まで全長約400メートル。50軒余りの店舗で特産品や伝統工芸を販売している。

●清明上河園

宋代の文化を体験できるテーマパーク。北宋の著名な画家、張択端の名作「清明上河図」を基に建設された。

清明上河園

●包公祠

宋の時代の有名な官吏、包拯（ほうじょう）を記念した祠。

包拯の銅像や石碑、さまざまな文化財資料が陳列されている。

王廷が生み出したとされる。村の人々が代々受け継ぎ、今では陳式、楊式、武式など五大流派に発展。世界100余りの国で1億人以上が行うまでになった。

西暦1600年ごろの明代末、同村出身の官僚、陳

洛陽

1500年の都、中華文明の聖地

河南省西部にある人口約700万人の都市。中国最初の王朝である夏朝から歴代13の王朝がここに都を置き、都としての歴史は1500年以上に及ぶ。

中国八大古都の一つで、「中華文明の聖地」として名高い。

●龍門石窟

市の中心からおよそ10キロ、河川（伊河）の両岸に位置する石窟群。甘粛省敦煌の莫高窟（ばっこうくつ）、山西省大同の雲崗（うんこう）石窟とともに中国三大石窟の一つ。2000年に世界文化遺産に登録された。

北魏時代から北宋時代のおよそ400年にわたり造営が進められた。川の両岸の西山、東山の両山肌に大小2340余の石窟、70余基の仏塔、10万余体の造像がある。

西山の奉先寺石窟は長さ、幅ともおよそ30メートルと最も規模が大きく、中の盧遮那仏（るしゃなぶつ）は高さ17・14メートルという巨大な像。

一方、最も小さい像はわずか2センチ足らず。

碑刻題記（銘文）は2800点余りと、中国の石窟でトップとされている。

●白馬寺

後漢時代の西暦68年に創建された中国最古の仏教寺院。

インドから布教のため中国に渡った高僧の摂摩騰（せつまとう）と竺法蘭（じくほうらん）が経典を白馬の背に積み、ここ洛陽まで運んだことからこの名が付いたとされる。

十三層の木造建築塔、斉雲塔は金代の西暦1175年の建築で、この寺のシンボル。主殿の大雄宝殿には三世仏像、十八羅漢、二天将など仏教文物の至宝が安置されている。

中国三大石窟の一つ、龍門石窟（奉先寺石窟）

白馬寺

三門峡

黄河流域最大のダム シルクロードの関所も

洛陽市の西、河南省最西部に位置する三門峡市は、人口およそ200万人。黄河最大のダム、三門峡ダムの建設に伴い発展した新興都市だ。古代の関所「函谷関」、周の時代の虢（かく）国関連の博物館など、ダム以外の観光資源も多い。

●三門峡ダム風景区

市の中心から約14キロのダムを中心とした風景区。

三門峡ダムは黄河に最初に建造された大型水利ダムで、高さ106メートル、長さ713・2メートル。1960年に完成した。

ここでは峡谷の険しくも美しい景観を楽しむことができる。

三門峡峡谷は観光客が激流下り（ラフティング）を体験できる場所でもある。断崖絶壁がそびえ立ち、山々が連なる壮大な景色を激流の中で楽しめる。

●函谷関（かんこくかん）

洛陽と陝西省西安のほぼ中間にある古代の関所。戦国時代に秦が東方からの侵入を防ぐために作ったとされる。

老子が「道徳経」をここで著したとの言い伝えがある。「函谷関の戦い」など、歴史上多くの戦いがここで繰り広げられた。

後の漢代に東方に移設され、前者を旧関、後者を新関と呼ぶ。この漢代の関所は「シルクロード・長安―天山回廊の交易路網」の一部として世界文化遺産に登録された。

●嵯函（こうかん）古道

洛陽と長安（西安）を結ぶシルクロードの一部の史跡。

●虢国博物館

西周（紀元前1046～771年）の虢国の墓地遺跡である車馬坑の発掘現場に建てられた博物館。中国三大遺跡博物館の一つ。

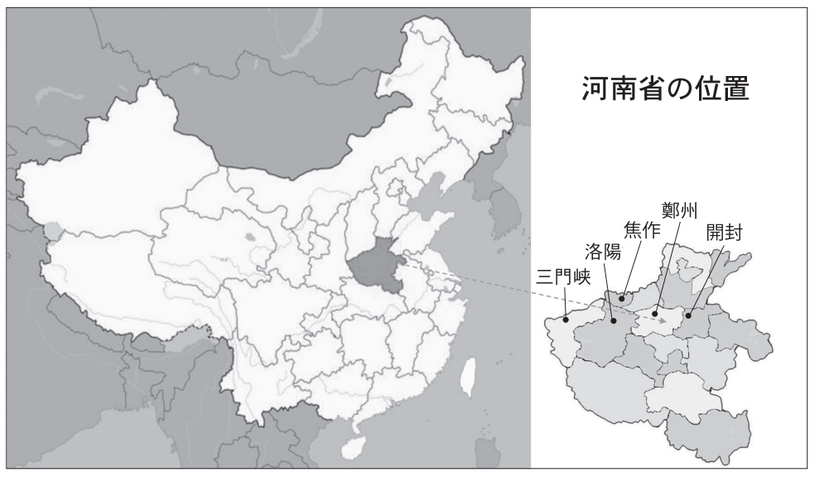
墓から出土した鉄、銅、玉の三種の材料で作られた玉柄銅芯鉄剣は、中国における冶金の歴史を200年遡らせたといわれる。

虢国や西周の歴史、政治、経済、文化、宗教制度を研究する上で重要な拠点となっている。

●陝（せん）州地坑院

地面を掘り、地下に洞窟式の住居を建築した独特の古い住居形態。同市陝州区に広く分布する。

函谷関



中国国家観光局駐日本代表処